

土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会（第24期・第7回）議事録

日 時：令和元年 11 月 21 日（木）13:00～15:00

会 場：日本学術会議 6-C(1)会議室

出席者／以下敬称略：

小林潔司，池田駿介，嘉門雅史，小松利光，藤原章正，
依田照彦，那須清吾，安福規之（スカイプ），高橋良和（スカイプ）

議事：

シンポジウム内容に関する自由討議

- 旧来の河川の実装を根本的に見直すべき。気候変動で状況が大きく変わっているのので、考え方を変えないといけない。百年に一回だと、行政の話だけではない。
- 被災した後の住宅がなくて年配の被災者が困っている。こういう視点で建築の先生にも話をしてもらってはどうか？
- 構造物のレジリエンスよりも地域のレジリエンスを考えることが重要。マネジメントからの防災計画が重要で、その方面からの話題提供がほしい。
- マネジメントの観点からいうと、避難のマネジメントが重要。ソフト的対策を。シミュレーションで量的な評価ができる？できていないのでは？鉄道が計画運休した場合、どのように逃げる？タイムラインが重要。
- 高知市内では、津波被害・水害対策のため、浸水を前提に1階が駐車場で、居住・就業スペースが2階にあるようになっていることが多い。
- タイムラインとマネジメントの違いを出すべき。
- 長期の予測は難しいが、1時間後に何が起こるかのシミュレーション技術は高まっているように思う。AIなどの支援を得て。
- 車で逃げて流された、というのが多かった。避難の仕方を事前に考えていない。
- 最近の災害は複合が多い。水害と流木。また、流木も斜面の崩壊と関わっている。
- マルチハザードとマルチレイヤー（基本的には市町村だったが、これを超える災害。羽田と成田の空港マネジメントとその他のインフラからの影響。多重な。）。マネジメントがこれらと連携していない。
- インフラの構造性能がマネジメントの基礎データになるとしても、マネジメントがしやすいようにインフラの構造性能を求める、というフィードバックの視点がほしい。
- 非常時に国等が介入・調整できるような仕組みが必要な状況が増えてきている。
- 土地利用（の制限）についても言及したい。
- 11/27 までにシンポジウムに関する企画提案書を提出しなければならない→12 月の幹事会に提出のため

- 全員がマルチハザードの視点で話してほしい

今までの議論を整理すると、

- 堤防
- マネジメント
- インフラ利用・あり方
- 都市構造（建築）
- タイムライン
- 気候変動の評価
- リカバリー／レジリエンス
- マルチハザード（マルチレイヤー）

シンポジウムタイトル「気候変動に対応した防災・減災のありかた」

プログラム案（「」内は具体講演タイトル）

全体司会：依田

13：30－40 あいさつ（小林）

13：40 テーマ：気候変動（小池）

14：00 「移行期における既存インフラの問題点」（小松）

14：20 「破堤しない堤防を目指して」（嘉門）

14：40－15：00 休憩

15：00 テーマ：建築（持田・東北大） 望月さんから頼む

15：20 テーマ：避難（片田）／あるいは那須／静岡大学の牛山

15：40 テーマ：マネジメント（小林）／

16：00 総合討論（司会：小林）

16：50 討論とりまとめ（池田）

17：00 閉会（池田）

シンポジウムに関し、

- シンポジウムの前に分科会を開催し、次期に向けての相談も。
- 録音をしたい。ボイスレコーダー持参（担当：藤原）。
- 宣伝については、幹事会を通してから。
土木学会・日本建築学会・防災学術連携体・地盤工学会などから後援をいただく。
会場ポスター掲示など（担当：安福）

（文責：高橋）